

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	23428	
事業名	精神科救急医療体制整備費						
評価担当課	所属名	保)障がい保健 精神保健福祉セ					
	課長名	堀川 幸	担当者名	神山 忠志	電話番号	011-622-5190	
施策名	主	地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	平成25年度から2床となっている夜間・休日における一日当たりの当番病院空床確保数の維持				
		長期	現在の重層的な精神科救急医療体制(病院群輪番2体制)の安定的維持及び精神科救急情報センターの円滑な運営				
	取組内容	【目的】急性期の精神症状を呈する方に対する早期の適正な医療及び保護を目的とする。重層的な救急医療体制の安定的な充実を図る。 【内容】精神科救急医療に係る相談を受け、適切な処遇へ振り分ける。①精神科救急情報センター:精神科救急に係るトリアージ(補助金対象) ②電話等による精神医療相談及び移送(補助金対象) ③電話等による精神医療相談 ④病院群輪番2体制の安定的維持 ⑤精神科等通院患者が自身の診療情報等を記載して携帯することのできる「こころの安心カード」の普及啓発					
実施結果	夜間休日等の精神科救急医療については、精神科救急情報センターにおけるトリアージ及び電話相談対応と北海道が実施主体となっている病院群輪番2体制によって安定維持されており、精神障がい者本人を含む相談者の問題解決の一助となっている。 また、「こころの安心カード」を、患者のアドビアランス(積極的に治療方針の決定に参加して治療を受けること)向上と不安等の軽減、精神科救急情報センターにおけるトリアージ時間や救急搬送時間の短縮、当番病院の負担軽減等に活用できるよう普及啓発した。						
事業実施における工夫点	病院群輪番2体制による充実化を勘案し、施設整備等に替えてソフト面の充実に係る取組により、本市の精神科医療資源を生かした重層的な精神科救急医療体制の強化を図った。						
対象者	精神科救急医療を必要とする市民等			開始	平成16年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	精神保健福祉法第19条の11、第34条、第47条、「精神科救急医療体制整備事業の実施について」(障発第0526001号厚労省社会・援護局障害保健福祉部長通知)						
他都市の状況	精神科救急情報センターについては、精神科救急医療体制整備事業の実施主体である都道府県と政令市の共同実施により、すべての都道府県で整備されている。 「こころの安心カード」については、都道府県・政令市としては全国初の取組みである。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	34,513	40,000	37,988	39,000	
うち特定財源	10,685	14,245	14,146	13,705	
人工	0.6	0.6	0.6	0.6	
人件費	4,320	4,320	4,320	4,320	
計(事業費+人件費)	38,833	44,320	42,308	43,320	
事業費の内訳	令和3年度決算	精神科救急情報センターの運営(委託料)26,950千円 病院群輪番体制(道への負担金)10,605千円 その他:433千円			
	令和4年度予算	精神科救急情報センターの運営(委託料)27,000千円 病院群輪番体制(道への負担金)11,188千円 その他:812千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	相談取扱件数(参考値)		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	4424件	4000件	4690件	4000件
活動指標2	指標名	夜間・休日における一日当たりの当番病院空床確保数		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	2床	2床	2床	2床
成果指標1	指標名	夜間・休日における一日当たりの当番病院空床確保数		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	2床	2床	2床	2床
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	相談取扱件数4,690件のうち660件(14.1%)が病院受診に至っている。また、受診の結果入院に至ったのは256件(5.5%)であり、医療を必要とする市民等の地域生活の支えとして成果を上げているとともに、限られた医療資源をトリアージにより適切に活用し、安定した運営を行っている。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	精神科救急情報センターにおけるトリアージ及び電話相談を行う相談員は原則2名で対応しており、必要最低限の人数となっている		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	精神科救急情報センターの運営は精神保健福祉についての幅広い知識や理解、経験等の専門性を有する事業者へ委託しており、実施主体は適切である。 なお、札幌市は北海道が設定する精神科救急医療圏域の道央(札幌・後志)ブロックに位置しており、圏域市町村の人口割合に基づいて経費の一部を負担している。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	夜間・休日における精神科医療に関する相談等を受け、トリアージする窓口は札幌市において他にはなく、対象者のニーズに応えている。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映			
今後の改善点	精神科救急情報センターの安定運営のため、災害や社会情勢等に影響を受けない体制を構築する必要がある。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	精神科救急情報センターの職員体制の見直しによる運営の安定化		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	精神科救急情報センターと病院群輪番2体制により、充実した精神科救急医療体制となっており、上記の評価を踏まえ、現在の事業を維持継続していくことが必要である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 今後とも精神障がい者本人や家族の不安を早期に改善し、より適切な医療へつなげるよう関係機関との調整を図り、委託先法人と連携して当該事業の継続に努める。 現在の体制の安定的維持のため、輪番参加病院等との連携を図る。		
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 今後も事業を継続していく必要があり、安定して実施するために必要な予算の確保が不可欠である。		見直し効果額 0 千円